

日本キリスト教会大阪北教会

2017年9月17日(日)聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 エフェソの信徒への手紙4章25～32節

04:25 だから、偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい。わたしたちは、互いに体の一部なのです。04:26 怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません。04:27 悪魔にすきを与えてはなりません。04:28 盗みを働いていた者は、今からは盗んではいけません。むしろ、労苦して自分の手で正当な収入を得、困っている人々に分け与えるようにしなさい。04:29 悪い言葉を一切口にしてはなりません。ただ、聞く人に恵みが与えられるように、その人を造り上げるのに役立つ言葉を、必要に応じて語りなさい。04:30 神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、聖霊により、贖いの日に対して保証されているのです。04:31 無慈悲、憤り、怒り、わめき、そしりなどすべてを、一切の悪意と一緒に捨てなさい。04:32 互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。

説教『神が赦して下さったように赦し合いなさい』

◆今日は近畿地方、夕方以降台風が強くなるという予報が続いていましたので、今日の午後予定しておりました「ニッキ・キンキ・コール第一回演奏会」と一周年の祝賀会を中止することにしました。そんなわけで、中止を決定したのが、昨夜午後8時前でしたので、今日の週報の報告にはニッキ・キンキ・コール第一回演奏会と書いてありますけれど、この週報ができた後の中止決定でしたのでそのままになっております。残念な思いもあるのですが、それだけではありません。お祝いのお花も届いており、勝浦誠さんも今日の出演に照準を合わせて退院されましたが、私たちの思い、力を越えた事態が人生には起こりますので、どうにも太刀打ちできません。しかし、私たちの信じている神様は、「善なる御方、全てを善として下さる御方」ですから、この中止に至った事態、事情をしっかり受け止めて、これをプラスにして行きたいと思っております。

◆ところで、今日の世界情勢は危機的であります。国連安全保障会議における度重なる北朝鮮制裁決議にもかかわらず、対立・緊張は高まるばかりであります。「安全」と「平和」は、全く違う概念であります。安全は、力の均衡で保たれるもので、

何時、崩れるかしれません。しかし、平和は崩れないのです。安全は崩れますが、平和は崩れません。平和は、神による愛と赦しに基づいてからであります。

◆28節で「盗みを働いていた者は、今からは盗んではいけません」と勧めているのは、これは普通の意味の「盗み」のことではありません。エフェソ教会の特定のメンバーへの勧告ではなく、これは全メンバーへの勧告であります。後半に「むしろ、労苦して自分の手で正当な収入を得、困っている人々に分け与えるようにしなさい」とあるのがヒントになると思います。つまり、人のものではなく、神様が各自に託しておられるもの、財産も含めて、それを私物化しないで、御心にそうように、用いなさいとの勧告であります。

◆次週読むことにしている5章1節～2節にこのようにあります。「あなたがたは神に愛されている子供ですから、神に倣う者となりなさい。キリストがわたしたちを愛して、御自分を香りのよい供え物、つまり、いけにえとしてわたしたちのために神に献げてくださったように、あなたがたも愛によって歩みなさい」と。この勧めと「あなたがたは盗んではなりません」との勧めは合致しているのであります。正に、イエス様は、父なる神様から託された使命を、身をもって生きられたのであります。先程、讃美歌の280番を歌いました。よくできた歌詞ですね。3番をご覧ください。“すべてのものを あたえしすえ 死のほかにも むくいられで 敵をゆるしし この人を見よ”。このような、イエス様の御業、御姿の中に、神様から託された事柄に忠実に生きる姿があるのであります。ここにパウロが勧めている事の核心があるのであります。

◆ところで今日は、日曜学校でも、「父よ、彼らをお赦しください。彼らは何をしているのか、知らないのです」という個所で説教をしたのですが、実はこのお祈りに捕えられて洗礼を受けられた人がおります。その人は、あの『小林多喜二』さんの従兄さんです。『小林多喜二』さんは歴史上の人物ですから、皆さんも耳にしておられるでしょう。小林一族は秋田県出身です。秋田から北海道の小樽に渡り、アレキサンダー宣教師よりも10年位後に来日されたピアソン宣教師から、パンの作り方を教わり、そして、「信・望・愛」をならい、ここから「三星」（みつぼし）という屋号を付けて、パン・洋菓子店を営んだのが小林一族であります。現在では、苦小牧が「三星」の拠点になっております。

◆ところでプロレタリア作家であり共産黨員であった小林多喜二は、1933年2月20日に築地署で拷問を受け、惨殺されました。若干29歳です。その従兄さんが後

年苦小牧で洗礼を受けられたのです。小林さんは私にこう言われました。「先生、自ら十字架に架けられながら、『父よ、彼らをお赦してください。何をしているのか分からずにいるのです』と、執り成しの祈りをされるなどということは、普通の人にはできませんね」というのが、小林さんの信仰告白でした。多喜二が受けたような拷問・虐殺はあるまじきことです。しかし、その従兄さんは、イエス様の犠牲の死と、多喜二さんの獄死を受け止めて、洗礼を受けられたのです。ここに、キリスト者の信仰の生き様、死に様があるのであります。そして死を越える生があります。

◆今日の説教題は『神が赦して下さったように赦し合いなさい』であります。今日の32節にこうあります。「互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦して下さったように、赦し合いなさい」と。ここでパウロが「赦す」という言葉を使う時には、パウロは赦され難い罪を犯してしまった者なのですが、そのような者を神様は赦して下さった。パウロにはそのような再生・復活の原体験があるわけです。それこそ、新聖歌268番が万感の思いで歌っているところです。「悲しみ尽きざる浮世にありても、日々主と歩めば御国の心地す。ハレルヤ！罪咎消されし我が身は、いづくにありても御国の心地す。」この最後の「御国の心地す」は「御国の民なり」と言い換えたいですね。この世にあっては悲しみは尽きません。性懲りもなく愚かしい事をしてしまうのです。人間は。しかし、キリストの十字架の犠牲によってとりなされたわたしたちの平和・平安・赦しは、それらを越えて、崩れないのです。

◆30節に「神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、聖霊により、贖いの日に対して保証されているのです」とあります。「神の聖霊」とは、霊として、わたしたちが何処にあって、常に共に居て、わたしたちを常に顧みて下さる神様のことです。地上の歩みを終えられ、復活されて、常に私たちと共に居て下さる主イエス様のことです。私たちの全生活は神と共なる生活なのです。私達は「聖霊の宮」なのです。コリント前書6章19節以下にこうあります。「19 知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿って下さる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい」と。

◆以前にもお話ししたことがあるのですが、皆さんアルベルト・シュヴァイツァーのことはご存知ですね。医者としてアフリカで奉仕した人ですね。彼はオルガニストでもありました。そして、神学者でもありました。しかし、使命を感じて医学を

学び直して、アフリカに渡ったのです。そのシュヴァイツァーが、パウロの手紙を読んで、パウロの信仰の奥底にある感覚は何かを探り当てました。それは「最早われ生くるにあらず、キリスト我が内に在りて生くるなり！」(ガラテヤ書 2:20)に結実しており、この現実感、リアリティーこそ、キリスト者の信仰、幸いであると言っております。キリスト者は、「キリストにあって」「キリストに結ばれて」、その苦難と栄光に与っている者なのです。これが「聖霊の内住」であります。これが、わたしたちキリスト者の日々であります。

◆ところが、それにもかかわらず、私たちはしばしば、わたしたちの日々の言動が、御霊を悲しませることをしてしまう。私の内に生きて、常にとりなして下さる主イエス様を、神様を、それこそ悲しませるような言動を、日常的にしてしまっている。私達はこの地上の歩みをしている限り、どうすればよいのか、どう祈ればよいのかさえ分からなくなることがあります。そのような時にも御霊なる御方は、私たちの為に、呻いて執り成しをして下さり、万事を益に変えて下さる」とロマ書の 8章 26 節以下にあります。これが、パウロが生きている信仰なのです。私達がどう踏み外しても、この御霊の執り成しは変わらないのです。しかしわたしたちは、「無慈悲、憤り、怒り、わめき、そしり」などを繰り返して、神様の御霊をかなしませてしまうのです。

◆しかし、そのような私達であってもイエス様の真実は崩れないのであります。このイエス様の真実、愛、憐れみこそ、唯一の平和の礎であります。そして、この平和は、無私の犠牲においてのみ、保持されるのであります。十字架に架けられつつも、執り成しの祈りを為さったイエス様に結ばれた私たち一人一人であります。そのイエス様に結ばれている私達であります。平和は犠牲なしにはあり得ないのです。各自、十字架を負うて、イエス様に従ってまいりましょう。

◆お祈りいたします。

憐れみ深い父なる神様。この世では、如何なることも起こります。あなたはその昔、今、ここに接近している台風さえも影が薄くなるような大洪水を起こされました。その事を通して、あなたはこの世の全ての者たちが本当の祝福に与かる道を示されました。愚かなことを繰り返す私達でありますけれども、どうか、使徒パウロの勧めを受け入れて、あなたの御心に適う道を歩ませてください。そして平和を造る者として下さい。この祈り、主イエス・キリストの御名を通し、御前にお捧げいたします。アーメン。